

# Acanthus

特集インタビュー

## 双方向遠隔授業システム完成

金沢大学 共通教育機構長 田中一郎

Campus Trend ランチョンセミナー

ヤングパワー 悩める金大生の味方“ピアサポーター”

産学連携 シーズをビジネスへ開花させる

医療最前線 “天使の手”で最高の手術を

地域と歩む 「市民大学院」開講

海外からの報告 インドと日本の違いについて

Dou!Sou!Kai!便り 金沢工業会

歴史探訪 啓明学校、石川県中学師範学校

ニュース&トピックス

## 田中一郎

金沢大学 共通教育機構長（金沢大学大学院自然科学研究科教授）  
北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員会議長

# ※双方向遠隔授業システムが完成！ 北陸の六国立大学が、 一つの教室空間としてつながります

「北陸地区国立大学 双方向遠隔授業システム」竣工記念式典が、去る5月18日、金沢大学をはじめ北陸三県六つの国立大学で行われました。式典そのものを、この竣工したばかりの遠隔授業システムを活用し、別々の大学にある四つの教室を結んで開催。これだけの規模でネットワークされたものとしては、まさに全国初となる画期的なシステムの完成を祝いました。金沢大学の共通教育機構長として、また北陸地区国立大学連合協議会の専門委員会議長として、このシステムの完成に尽力された田中一郎教授を、機構長室に訪ねお聞きしました。

### 初代の共通教育機構長 として教養教育を 見据え続けている

―田中先生は教養部廃止後に発足した教養教育機構の機構長を平成12年から務められ、平成16年に共通教育機構長と改称されるとその初代機構

長に就任されました。つまり、一貫して教養教育を見据えてこられたのですよね。

**（田中教授）**大学の教育課程は、従来から教養的科目と専門科目の二本立てであり、この基本路線には変わりがないのですが、教養的科目の教育は、学部 of 垣根を取り払い全教員が手分

けて行うように機構改革したというのが、いわゆる教養部の廃止の意味です。

学内のマンパワーを最大限に活用するという意味では、一番いい方法だと今でも思っています。―では、共通教育機構になった当初

から、この双方向遠隔授業システムはプランに入っていたのでしょうか。

**（田中教授）**具体的なイメージがあったわけではありませんが、グローバルなIT技術の進展を視野に入れると、各大学が共同で人材を出し合っ学生ニーズに添っていくという方法が、やはりこれからの大学の在り方、特

※注：平成17年10月からは、富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学が統合し、新「富山大学」として発足するため、四国立大学となる。



に教養教育の在り方として、必要になってくるのは必然だとの思いはありました。

ただ、北陸三県とはいっても距離があり、その克服がやはり問題でした。全国的にも単位互換制度などを大学間で結んでおられるところもあるのですが、結局は大学間の物理的な距離が学生たちの行き来を阻んで、有名無実化しているところが少なくありません。

そういう距離的な問題を克服するにはどうしたらいいかということになると、やはり双方向の授業システムが不可欠ですし、そのためのシステム構築のために議論を尽したつもりです。

## 目指したのは 距離を超えた対面式 授業の実現

—先日、完成式典が行われたわけですが、全国的にも画期的なものとして注目を集めましたね。

**(田中教授)** 北陸地区六つの国立大学を双方向で一体化するという、これほどの規模のシステムは全国的にも初めてです。

従来から、一つの大学の中の距離的に離れたキャンパス間をつなぎ、先生のいないキャンパスでも聴講できるといふ形はありましたし、いわゆる予備校が衛星通信を利用したサテライト授業などもありました。

でも、それらはやもすると一方通行になりがちです。双方向にしようと思えばできるのですが、誰か操作する人間が横についていてスイッチを切り替えるという、とんでもなく面倒なことをやらないといけないということがありました。

—まったく手間要らずの双方向遠隔授業システムが、完成したということなのですね。

**(田中教授)** 言うまでもありませんが、先生方にとって授業というのは90分間の真剣勝負です。その限られた時間の中で先生が機器の操作をする、あるいは事前に機器の操作を学ぶ、そんな負担を強いてはいけなさと考えたのです。

基本的には先生方は、極端なことを言えばチョーク一本持ってきて、時間になれば授業を普通に始めて、そして時間になれば普通に教室から出ていっていただけ。

あくまでも普通の授業、対面式の触れあいのある授業を、遠隔地を双方向で結んでできるようにするというのが主眼でした。

## 学生にとっては復習や 予習に、教える側にと ってはチェックに

—授業を受ける学生側にとっての具体的なメリットを一つ挙げて頂きますと。

**(田中教授)** 昔はデキる生徒のノートをみんなで回していたけれど、これからはDVDがその役目を担うというのはどうでしょう。(笑)

実際、双方向で行った授業の内容を、先生の話や学生の質問はもちろん、板書された事柄や使用された資料などを、DVDに自動的に収録してコンテンツ化しますので、要望に応じて貸し出しをするなり、あるいは視聴していただくということは簡単にできます。

もちろん、授業というのも一つの著作物と考えられますので、そのあたりをクリアするという課題は残っています。

—学生は復習に使えるし、先生は自分の授業のチェックに使えるということですね。

**(田中教授)** 場合によってはやむをえず欠席した学生がそれを見て授業についていける





特集インタビュー「双方向遠隔授業システム完成」

## 田中一郎

金沢大学 共通教育機構長（金沢大学大学院自然科学研究科教授）  
北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員会議長

え方はあると思いますけれども、やはり熱意があれば、どこまででも予習もでき、復習もできというのがやはり一番いいことかなという気がしています。

また、先生方もやりっ放しということではなくて、またそれを参考に授業をさらに洗練するときなど大いに役立つと思います。

### 今後ますます

### 期待されるさらなる 大学間連携の推進

（田中教授）双方向遠隔授業というのは、大学間で人材を補完しあえるというメリットももちろん大きいのですが、もっと積極的な面にも期待をふくらませています。

つまり、六大学の専門家が集まったから初めて実現可能な授業もあると思っております。

例えば、一つ北前船をテーマに取り上げた場合ですが、日本史としても、経済史として

も、あるいは地域学・地方学としても、さらには日本海の海流・気象学としても展開できるわけです。

こういった複眼的な授業というのは、なかなか一大学では実現できなくて、六大学の人材を結集して初めてできるかなと思います。

—なるほど、一つ一つの知識を複眼的に学ぶことで、まさに知恵となるということですね。

（田中教授）そうですね。これまでは教養教育であれ、専門教育であれ、「何々学」として学生に教えていたわけですが、学生のニーズとか、あるいは社会の複雑化とかを考えると、「何々学」という形で授業を提供しても、学生にはそれほどの満足感はないのではないかと思われま。

一つのテーマや課題でもいろんな学問からの見方があって、専攻している学問から見た見方が唯一のものではないという「知恵の会得」を、学生自身ももちろん社会もまた望んでいるのではないのでしょうか。

そういう意味でも、多くの人材、特に六大学の人材を集めて新しい授業を立ち上げるといことは、学生にとって非常に刺激になると確信しています。

—そのあたり、専門の工学の立場からもう少し具体的にお教え頂けますか。

（田中教授）そうですね。私は工学部や自然科学研究科で教えているわけですが、やはり工学部の学生たちにも、例えば経済学の初歩的な分野は理解してほしいと考えていると言えは具体的にでしょうか。

製造業というのは単に機械を使っただけで作るといっただけじゃなくて、やはり顧客ニーズがあり、少なくとも経済学の知識は不可欠だと思います。

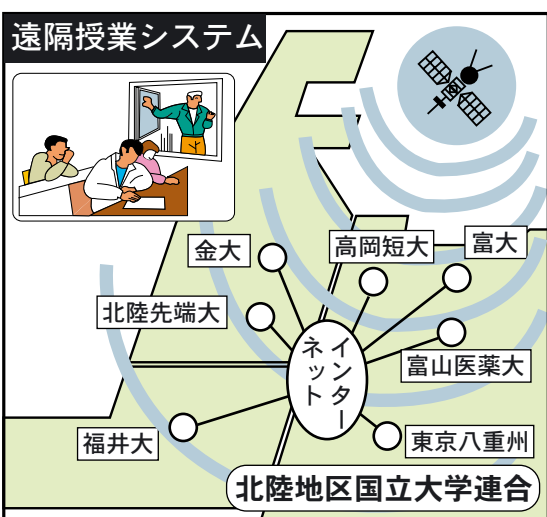
それを提供できるのは、やはり教養教育ではないかと思っております。すし、その充実のためにも、この双方向遠隔授業システムというのを、より効果的に機能させて行きたいと考えています。

自戒を込めて言えば、我々大学で教える側というのは、研究を狭く深めた「何々学」を教えるのは得意だけれども、それから一歩踏み出してしまうと、自分一人ではとても教えきれないところがありますから。

よつにするといいこともあります。また次の年度の学生に、受講科目選択の検討材料に使ってもらえるようにしたり、高校生に対しては、各々の大学がどのような授業を展開しているのかを具体的にリサーチできる材料として提供することなども考えられます。

—ごまねにしても、やりっ放しの授業ではなくて、確実なコンテンツとして機能させられるようになるというふうにですね。

（田中教授）教科によっていろいろな考



## 来春からの本格的 導入を視野にこの秋に 八講座を試行予定

―来年4月からの本格稼働を視野に入れて、この秋から試験的に開講しますね。

**(田中教授)** はい、例えば「コーヒーの世界」という講座など面白いと思いますし、他に文化人類系の特殊講義など、まず八科目を開講し、来春から順次本格的に科目を増やしていく予定です。

―多くの学生たちの反応、感想を今から楽しみになさっているのではないのでしょうか。

**(田中教授)** はい。先生がスクリーンに映っている他大学の学生を指さして指名すれば、その学生はスクリーンの向こうの先生が、あたかも自分を指さしているかのように見ることが出来ます。

また先生のいる教室の学生は、後ろを振り向くと、あたかも後ろに座っている学生が指名された、あるいは発言しているというふうに見えるわけで、学生たちがこのシステムを具体的に体験し、どんな感想を口にするのか今から本当に楽しみにしています。



## 六大学の人材を 結集して 複眼的な授業を

―他でも北陸地区の成功を参考にし、同じようなシステムが立ち上がっていくと思われませんか。

**(田中教授)** もちろんそうなると思いますし、その時のためにも、少なくとも我々は先行者として全国のパイロットとなるようなものを構築して、全国に双方向遠隔授業システムの活用方法、あるいは人材の活用方法を提案していきたいと考えています。

双方向遠隔授業システムを新たに立ち上げようと思えば北陸地区を参考にせざるをえない、そういうレベルにまで完成度の高いものにしていきたいと願っていますし、またそう出来るかと確信しています。





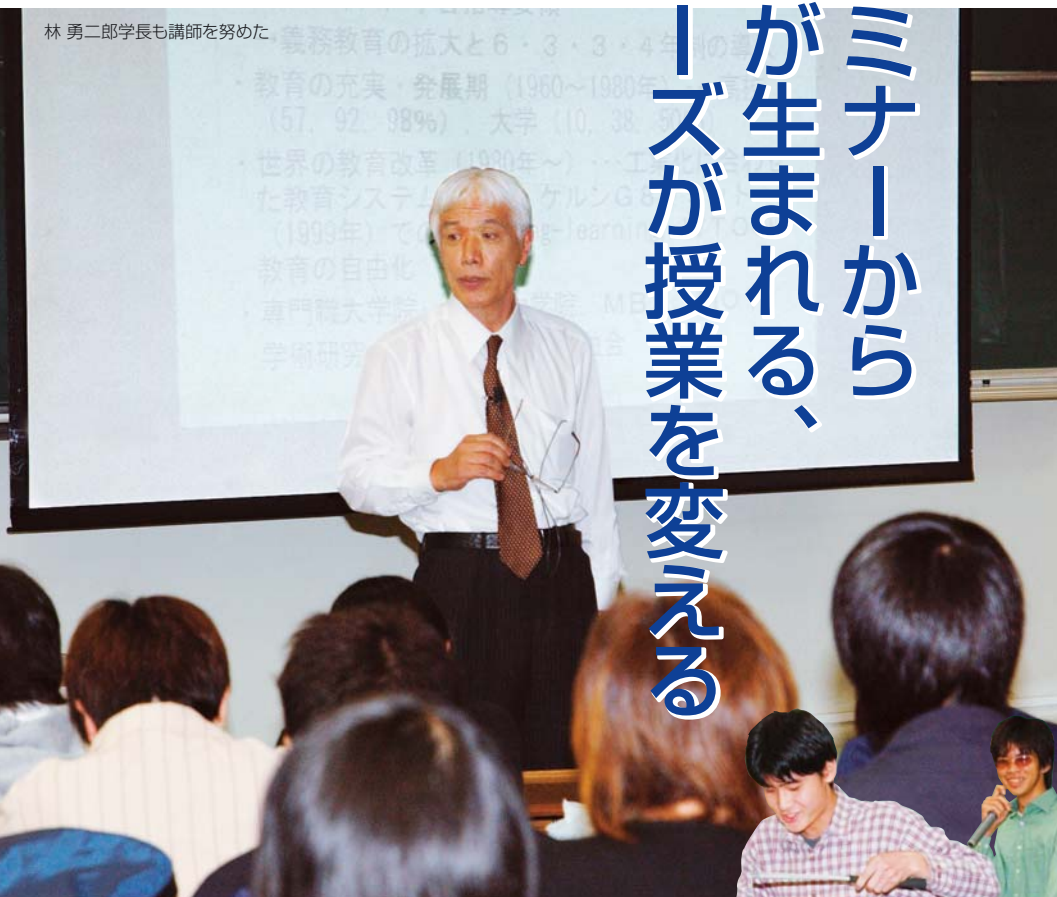
大学教育開発・支援センター長  
青野 透教授

## ランチオンセミナーから 新たな授業が生まれる、 学生のニーズが授業を変える

「**昼**」の学生たちに居場所を与えたい」  
が、セミナー開催を思いついた最初  
のきっかけだったと青野教授は言う。  
角間キャンパスでは、混雑する学食以外  
に昼休みを過ごす場所がない。ゆつくり  
食事できる場所を提供し、その時間を利  
用して学習・研究に役立つ知識を学生に  
提供する。そんな目的でセミナーは始ま

昼休み時間に、学生たちがお弁当を広げながらミニ講座を聴く。金沢大学角間キャンパス総合教育棟の階段教室でほぼ毎日見られる光景だ。「角間ランチオンセミナー」と名づけられた30分間のミニ講座は、2003年の6月の開始から今年6月末までに延べ200回以上開かれている。セミナーを主催する大学教育開発・支援センター長の青野透教授にお話を伺った。

林 勇二郎学長も講師を務めた



った。

講師を務めるのは、大学の教員・職員、学外の方、留学生など。テーマは「大学からの英語の学び方」「自然科学の研究者になりたい人のために」など学問への動機付けとなるもの、「転学部希望者のために」「将来の進路を考えるための情報」「交通安全」「エイズ」など快適な学生生活を送るための情報、学生の学習成果発表など多岐にわたる。セミナーのほ



ジャanglingアンドマシクサークル  
(JMC)によるランチオンプロジェクト

が、課外活動サークルが企画する「ランチ  
コンプロジェクト」、音楽系サークルが発  
表する「ランチコンコンサート」も開かれ  
ている。

受講者は平均50〜60人。「レポートの  
書き方」「大学院進学」などすぐに役に  
立つテーマでは100人を超す学生が耳  
を傾げる一方、「大麻の危険性」「エイズの  
知識」など硬いテーマにはなかなか学生  
が集まらないようだ。

## 学生のニーズを取り入れた 新しいテーマ

**ラ**ンチオンセミナーで学生に好評だ  
った内容が、大学の正規の授業に  
取り入れられた例もある。人気の高かつ  
た「レポートの書き方」については、いく  
つかの教養的科目で教えるようになった。  
また、来年度から新たに開講される「大  
学・社会生活論」の授業には、セミナーで  
その必要性が明らかになったテーマが授  
業の一部として取り入れられることにな  
った。学生のニーズが大学の授業を変え  
るきっかけとなったのだ。

セミナーが始まった頃は毎日のテーマ  
に「質性がなく、できるものからやってい  
たが、2004年5月に「国際交流月間」  
と銘打って、海外への興味を喚起させるテ  
ーマを集中させたところ、リピーターも  
増えて好評だった。最近では、新人生向け

ガイダンス、就職支援、学び方教室といっ  
たそれぞれの時期に合ったテーマを集中  
させることで、学生の興味を引きやすく  
している。このあと、未習言語、地域貢献、  
夏休みの過ごし方(生協提供)といったテ  
ーマが準備されており、大学の各部署や  
学外からも、それぞれの立場から学生に  
伝えたいテーマを出してもらおう予定で  
いる。



「歴史教科書問題」で、留学生と日本人  
学生が討論したセミナー



フィルハーモニー管弦楽団による  
ランチコンコンサート

## ランチオンセミナーは ニーズを把握する アンテナ

**ラ**ンチオンセミナーは学生のニーズ  
を把握するアンテナ役なんです。  
その時代ごとに学生の望むものは変わっ  
ていく。大学が与えたいものと彼らがほ  
しいものは違っているかもしれない。望む  
ものをそのまま与えるのではなく、両者  
をすり合わせる実験の場としてセミナー  
はあるんです。正規の授業では実験はで  
きないですからね」と青野教授はセミナ  
ーの意義を語ってくれた。

ランチオンセミナーから新たな授業が  
生まれる、学生のニーズが授業を変える。  
大学全入時代を間近に迎え、学生のニ  
ーズをいかに捉えて教育に反映させてい  
くかが、大学の大きな課題であるが、ラン  
チオンセミナーはその一つの場を提供し  
ているようだ。



立ち見も出たランチコンプロジェクト  
「体育系サークルの紹介」

# 悩める金大生の味方 『ピア・サポーター』

お気軽に！

東向きに窓があり、日当たりのよい室内。落ち着いた色のソファにクッションが置かれ、観葉植物が気持ちよさそうに葉を伸ばしている。

—ピア・サポーター・ルーム。

2004年10月に開設された、学生による、学生のための相談室は、金沢大学の学生が気軽に悩みを打ち明けられる場所だ。

## どんな些細なことでも お気軽に

部屋にはピア・サポーターと呼ばれる学生ボランティアが月々金の13時から16時まで常駐している。

「お気軽にどうぞ」と、手書きのポスターが掲げられた入り口には、担当者の学部と性別なども併せて掲示。優しい雰囲気の内と同じく、悩みを抱える学生にとってはうれしい配慮だ。どんな些細なことでもいいし、逆に本当に深刻なことでも

「とりあえず、話してみようかな」くらいの気持ちで来てください」

そう語るのピア・サポーターの一人。直接的な解決に結びつかなくても、話だけで元気が出る、話を聞いてもらえただけで楽になる、そういったことは多いのだそう。

## 同じ金大生だからこそ わかることも

ピア・サポーターになるには、半年間カウンセリングの基礎を専門家から学ぶ必要がある。それゆえ専門家には及ばないものの、悩みを抱えた人のつらさや苦しみを、話を聞いてあげるといふことの重要性を、サポーターはちゃんと理解している。

「それでも私たちは本物のカウンセラーではありませんから、力が及ばないこともあります」

そんな時、サポーターは、相談に来た人に、本学のカウンセラーである鈴木健一先生やそのほか適切な専門機関を紹介するという。

「架け橋とか、入り口とか、そいつ

た役割ですね」

本人たちが言うように、確かにピア・サポーターは「本物のカウンセラー」ではない。しかし「金沢大学の学生」なのである。

「相談したい人が入りやすいよう、部屋のドアは開けっ放しなんですよ」

悩める金大生。彼らには、カウンセラーよりも頼りになる、そんな味方がついているのかもしれない。

### ●ピア・サポーターの皆さん

男性7名/女性6名  
(2005年7月現在)  
専門家から半年間、トレーニングを受けています。  
安心してお越しください。

### ●ピア・サポート・ルーム

開室: 毎週 月曜～金曜  
3～4限(学休み期間を除く)  
場所: 保健管理センター南分室内  
(自然研バス停正面)

### ●お問い合わせ

学生支援課 学生相談係  
076-264-5254  
メール  
peer@ad.kanazawa-u.ac.jp  
ホームページ  
http://www.ad.kanazawau.ac.jp/ad\_gakusei/  
campus/kousei/soudan/peer\_top.htm

※サポーターは2人ペアで相談にあたります。  
学休み期間は閉室しています。





産学連携



6月13日。様々な企業、様々な役職の方々が金沢大学に集まって、本学が開催するセミナー「ビジネススクリエイト工房」の集大成ともいえるプレゼンテーションが行われた。

### 使命はシーズをビジネスとして創造すること

ビジネススクリエイト工房の目的はただひとつ。金大が持つシーズ（＝特許）を教材に、新しいビジネスを開拓する技法・能力・センスを身につけるといふものだ。

提供されたシーズは、簡単に油水を分離する方法であったり、画期的な燃焼法であったり、ひとつの「技術」にすぎない。その技術をどう「ビジネス」へと昇華させるかが本セミナーの根幹なのだ。

例えば、燃焼法シーズをベースにビジネスプランを発表するグループ。現

# シーズをビジネスへ

## 開花させろ！！

「シーズとは日本語で「種」。  
どこまで伸びて、どのような花が咲くのか。」

多喜氏の的確なアドバイスが  
受講者の、ビジネスプランの幅を広げていった



「そのような方法では、前に述べた物の流れ、金の流れは生まれないはずだ。」

知的財産部で勤務する電子メーカー社員は言う。「シーズをビジネスとして創造する。ここまでやるとは思わなかった」

また、銀行に勤める男性と中小企業診断士の男性は語る。「ベンチャー企業の顧客や経営相談に来る方々に、これまで以上のアドバイスをすることができそうだ」

そして誰もが、これだけ多種多様な業種の方々とコミュニケーションできたことは大きな財産であると答えてくれた。

シーズとは日本語で「種」。  
どこまで伸びて、どのような花が咲くのか。

当セミナーの修了者が美しい花を咲かせることを期待したい。



状の問題点をあげ、自分たちならばそれらを解決できると説く。  
この燃焼法なら産業廃棄物を燃やせませ。飲食店の排水も、油水分離のシーズを使って燃やせませ。燃えカスからは有用物質を回収し販売します。熱はレジャー施設に転用し利益を出します。などなど。  
参加者からも指摘が飛び、産廃を燃やして煙は大丈夫なのか。すかさず、特許の考案者である大学教員が答える。「まったく問題ありません」

### ビジネススクリエイト工房が創りだす新たな市場

ビジネススクリエイト工房が創り出すのは、シーズを組み込んだ「商品」ではない。シーズを核とした「市場」なのだ。

例えば燃焼法を組み込んだ焼却炉を作ったとすれば、その商品を販売するだけでビジネスが終わってしまう。こ

# ”天使の手“で 最高の手術を



心臓の表面を走る冠動脈。心臓の筋肉、心筋に酸素や養分を送る重要な血管である。動脈硬化によってこの血管が狭くなれば、狭心症、完全に詰まってしまうと、心筋梗塞となり、命にかかわる。渡邊剛教授はこれら、虚血性心疾患の治療法である、冠動脈バイパス手術“のスペシャリストであり、99.7%という世界最高水準の成功率を誇っている。「実は今日も手術があるんですよ」

多忙なスケジュールにもかかわらず、快くインタビューに応じてくれた渡邊教授。いろいろなお話を伺った。

**「そ** の患者さんにとって最高の手術を」

渡邊教授の心構えだ。冠動脈バイパス手術は、人工心臓を用い、心臓を止めて行うのがかつての主流であった。しかし、その方法では患者に負担が大きく、一定確率で術後合併症を引き起こしてしまつた。

## 人工心臓は用いない

経験上明らかに合併症が起きる。重篤な患者を前に、渡邊教授は1993年、日本で初めて人工心臓を用いない”心臓を動かしたまま“での冠動脈バイパス手術(オフポンプ・バイパス術)を行った。つなぎ合わせる血管の直径は1.5〜20mm。当然手術の難易度は格段に上がった。しかし、術後合併症の発生率は大幅に抑え

られたのだ。

## 全身麻酔も使わない

冠動脈バイパス手術には全身麻酔を使用する。前述のオフポンプ・バイパス術も例外ではない。

しかし、患者の中には他の病気を併せ持ち、全身麻酔をかけられない状態の人もある。

「その患者さんにとって最高の手術を」それでも、渡邊教授の心構えは揺るがない。

1998年、局所麻酔でオフポンプ・バイパス術を成功させる。患者は執刀中も意識があり、術後、たったの一週間で退院することができた。現在、日本でこの手術を行えるのは渡

邊教授ただ一人である。

また渡邊教授は1999年に、世界で初めて内視鏡を用いた冠動脈バイパス手術も成功させており、挑戦はとどまることを知らない。

## 類

稀なる技術。渡邊教授はその継承に関しても熱心だ。

手術に必要な手先の器用さ、そして冷静な頭脳。それらを併せ持った人材を発掘し、自分の技術を受け継がせる。渡邊教授は言つた。

「それは大学人としての私の使命ですね」

## そして、夢の実現へ

オフポンプ・バイパス術の回数は1000例を越えた。重篤な患者のみに行つ、局所麻酔でのバイパス手術もすでに50例を超えている。

限りなく100%に近い成功率、そして卓越した技術。

しかし、渡邊教授の視点は更なる高みにある。

「私の夢は、日帰り心臓手術です」

朝に手術をして、夕方には元気に歩いて帰ることもついで。

それが、渡邊教授の目指すところだ。

——彼は、”天使の手“を持っている。

周囲からそう称される渡邊教授。

これからもその手で、多くの人の命を救っていくことだろう。

## 渡邊 剛 Watanabe Go

金沢大学教授 心臓血管外科



▼憲法9条をテーマとした大学の卒業論文では、何十冊もの本を読んだり、新聞切り抜きを集めたりしたと話してくれたMさん



この春に16年かけて大学を卒業したという70代女性のMさん。中学卒業後、一家の大黒柱として働いてきた彼女は、子供が成人したのをきっかけにこれからは自分のために生きようと決意した。知識がないために不利益を受けた経験から、高校の通信制から始め、働きながら高校、大学を卒業。そして、金沢大学の市民大学

## 生涯学び続けたい

もっと学びたい！

# 「市民大学院」開講

市民が大学教員によるゼミを受けながら、自分の研究テーマを1年にわたって研究し論文にまとめるという金沢大学の「市民大学院」が5月21日から開講した。ゼミ受講生23名中14名が60代以上と、時間に余裕のある高齢者に人気だ。受講生に研究への意気込みを聞いた。

金沢大学サテライ



▼この日のゼミでは、2人の受講生が今後の研究の進め方を発表した

院を知り、かねて知りたかったと思っていた自分の生まれた町の宗教のルーツを探ることを研究テーマに選んだ。

Mさんは「生涯学び続けて常に何かを求めている。自分史を書いて子供や孫に残そうとその講座も受けているんですよ」と楽しそうに話してくれた。

定年退職後にこれまで興味があった白山信仰や文学について学び始めた60代男性のIさん。県民大学や大学の公開講座を受講したが、ただ聴いているだけの講義に物足りなさも感じていた。市民大学院では、他の受講生の研究方法が参考になり、自分の研究への意見も聞ける。相互にコミュニケーションすることで学ぶ意欲が増すという。

「定年後、女性では25年以上も時間があまる。赤ちゃんが成人になるより時間が長いんですよ。大学には、もっと高齢者が

意欲的に学べるしくみを作ってほしいですね」と大学への注文も。

## 意欲に応える多様なメニュー

市民大学院では今回「北陸の宗教と民俗」「金沢ゆかりの文学」「韓国と北朝鮮の諸問題」の3つのゼミが用意され、それぞれ、研究指導を受ける30回のゼミと、ゼミに関係する基礎知識を得る10

回の基礎講座で構成される。ゼミでは受講生が研究の進め方を発表しあい、教員から調査のポイントや文献についてアドバイスを受ける。金大の博士課程を修了した市民大学院教員が資料検索や取り寄せ方法などを手助けする研究支援の時間も用意されている。



1ゼミの受講料が9千円と安いことから、正式に大学院で学ぶには経済的負担が大きい市民も手軽に受講できる。ただ聴くだけでは物足りない、学ぶことに意欲的な市民が増えていく。この意欲に応える多様なメニューを用意することが、大学の社会への貢献の一つとなりそうだ。

2004年の8月から2005年の7月までの1年間、大学間交流協定校であるインドのフネー大学附属のパンダルカル研究所に留学している大学院生から、インドと日本の違いを感じたことについて報告してもらいました。

文学研究科2年  
清水 茜

インド人の記憶力

英語、現地語、梵語の三言語が飛び交う梵語学の授業は、インド伝統の一方的な講義が主流ですが、未確定の授業時間が常に学生を振り回しています。より貪欲に学問を志す学生(留学生)たちは、先生やハンデットの下で個人授業も受けています。インドの学問は、伝統的に記憶を重視する傾向があり、1科目3時間に及ぶ大学の試験では、学生は、問題を予想して丸暗記し



プライベートレッスンを受ける清水さん(左)



フネー大学メインビルディング

インド人の類まれな記憶力に脱帽する瞬間です。

インドの本との出会い

図書館の利用には、諸書類の提出や保証金の支払いによってメンバーシップを得ることが必要です。晴れて会員になると、入口に荷物を預けて、本の検索に移ります。梵語学の分野はまだ紙カタログが主であり、目的の本に出会うまでには、しばしの辛抱が必要です。本の貸し出しには、教授や適格者の筆が必須ですが、破損の危険性のあるものは原則貸し出し禁止となっています。また複写に関しては、依頼が可能ですが、傷みの激しい書籍の場合は、依頼者負担で一部のコピーが要求されます。時々、記載もれている本や、カタログにあっても書架にない本があつて、大変困りますが、司書と顔なじみになると、その親身な助けによって、運良く欲しい本が見つかることがあります。顔を売っておくことの重要さが身にしみる瞬間です。

※梵語 古代インドの文語であるサンスクリット語の称。  
※ハンデット:インドの伝統文化「学識」を口頭伝承で伝える知識人のこと。

た回答を、制限時間いっぱい自らの記憶力を総動員して、白紙のA4判の解答用紙12枚にただひたすら書き込みます。インド人の類まれな記憶力に脱帽する瞬間です。

Dou!Sou!Kai! 便り



▲工学部と自然科学研究科学生が学ぶ自然科学研究科棟

●金沢工業会(金沢大学工学部同窓会)

新キャンパスで  
新たな発想を

金沢工業会理事長 山田 実

金沢工業会ホームページ URL:<http://www.t.kanazawa-u.ac.jp/Kogyo/kogyo.htm/>

支部総会などにおいて会員相互の親睦と情報交換を行なっている。

近年は、学部や学科別であった金沢大学の種々の同窓会が協力し合うようになつてきた。金沢工業会では、既に東京支部や近畿支部で、法・経・文同窓会との合同懇親会を開始している。

工学部あるいは工学系大学院の就職率は、ほぼ100%を維持している。学部と修士の就職希望者は100名程しかないのに、500~1000名の求人が来ている学科もある。

工学部の就職率が良いのは、学生諸君の努力にも起因するが、社会における先輩諸氏の活躍が金沢大学工学部の名を高めているからである。

金沢工業会は、大正9年(1920年)に開学した金沢高等工業学校、その後の金沢工業専門学校、そして昭和24年(1949年)からの金沢大学工学部の卒業生による同窓会である。生存している会員数22000人程である。卒業生だけでなく、工学部教員も金沢工業会の会員であり、大学と社会の橋渡しに尽力している。

金沢工業会には、全国で17の支部があり、



部の同窓会と同居になった。写真は我が金沢工業会が使っている部分で、事務員2名が業務を行っている。

「新しいキャンパスで、新たな発想を組み入れたい」これが金沢工業会の願いである。

# -2- 啓明学校、石川県中学師範学校

## 金沢での高等教育のパイオニア

資料館客員研究員 板垣 英治

明治4年の廃藩置県後、石川県は学制を改革して旧教育機関を廃止、小学校卒業生の増加とさらに高度の教育の必要性から、新たに中学校教員養成のために4年制の中学師範学校を9年2月20日に仙石町に開校しました。この学校は「文物ヲ煥

発啓明セントスルト」を目的として「啓明学校」と名付けられましたが、翌10年7月には「中学教員ヲ陶冶せんカ為メ」に校名を「石川県中学師範学校」と改めました。これは明治8年に東京師範学校に中学師範学科が設置されたのに倣ったものであり、全国に他に例を見ないものでした。

本校は現在の金沢中央公園の仙石町通り中程にありました(写真1、写真2)。職員は、元石川県学務専任の野村彦四郎校長と百束誠助副校長、英人ランベルト校長、教諭8名、助教諭5名で構成され、入学生は168名でした。教則によれば、甲、乙の二部として、



図1: 加賀金沢細見図(明治9年9月)  
金沢市立玉川図書館近世史料館蔵

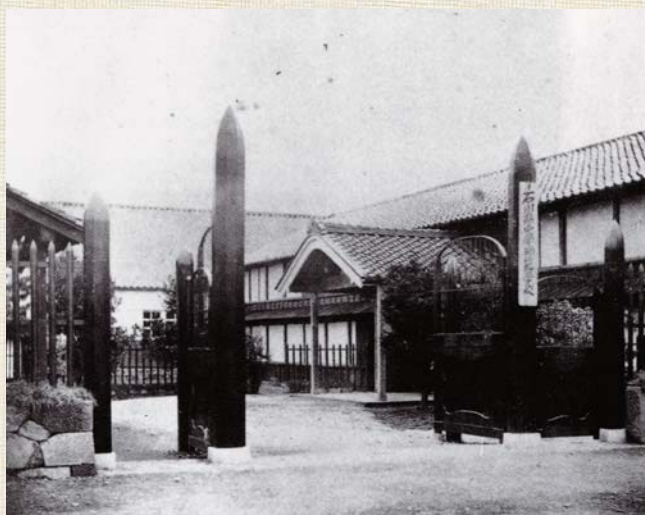


写真1: 石川県中学師範学校  
「明治の日本—宮内庁書陵部所蔵写真—」吉川弘文館, 2000 より引用

それぞれに下等の基礎教育2年間4学期と、上等の教育科目(5門、普通全科、理化両学、外国語、政体学、農学)の2年間4学期の教育が行われていました。しかし、まだ洋学が盛んでないこと、教科が乏しいことから外国人を教長として、特に甲部では洋書を専ら用いての教育でした。

ランベルトの後任として、11年8月から23才の米人ホイットニー(Willis Norton Whitney)が教長となり、英語と物理・化学の教育を行いました。しかし、その勤務期間はわずか11ヶ月に過ぎず、翌年夏には東京に去つていきます。続いてウィン(T. Thomas Clay Win)が着任しました。

教 官で注目されるのは数学の関口開です。関口は加賀藩の藩校で学び、この学校と石川県専門学校(次回掲載)で教鞭を執りました。関口は和算をまず学び、次に西洋数学を独学して、22冊の数学書を翻訳・著作しました。中でも明治6年に出版した「新選数学」は22万冊も売れたベストセラーです。関口の薫陶を受けた北条時敬は東京大学理学部数学科に進み、卒業後石川県専門学校で教鞭を執り、その教え子に西田幾多郎がいます。西田は一時、北条家に寄宿し教えを受け、更に第四高等中学校では、初め理系で数学を学んだほどです。彼にとって北条は生涯の先生であつたといわれるほど深い関係があつたのです。北条はその後、第四高等中学校校長、広島高等師範学校校長、東北帝国大学総長、学習院長等を歴任しました。また、徳田秋声もこの学校に在籍していました。

文部省は明治11年2月に全国の師範学校に物理教育の補助のために一組110点の物理器械を交付しました。本校に交付されたその器械の一部53点が現存することが最近明らかとなりました(写真2)。本校は僅か5年の存続で、明治14年7月には高等専門学校を目的とした石川県専門学校となつていきます。



写真2: 明治11年の文部省交付器械  
「電信器雛形」金沢大学資料館蔵



●このほか、金沢大学のニュース&トピックスは、金沢大学公式ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

## ●自然科学棟と創立50周年記念館 「角間の里」竣工記念祝賀会

5月16日、角間キャンパスで自然科学棟と創立50周年記念館「角間の里」の竣工記念祝賀会が行われた。

自然科学棟は、総合移転第Ⅱ期事業として平成10年4月に着工、この3月に自然科学系図書館棟が竣工し、主な建物がほぼ完成。理・薬・工の各学部と自然科学研究科の理工系学部等の教育研究拠点となる。



竣工した自然科学棟



式典でテープカットする林学長（中央）ら

一方、「角間の里」は旧白峰村の古民家をキャンパス入口付近に移築したもので、昨年6月に着工、3月に竣工し、地域交流の拠点施設として利用されている。祝賀会には、文部科学省結城章夫事務次官や杉本勇寿石川県副知事、山出保金沢

市長、近隣大学関係者、学内教職員ら150名余りが出席し、事業の完成を祝った。

## ●北陸地区6国立大学 双方向遠隔授業システムが完成

北陸3県の6国立大学間で、講義の映像と音声を送受信する「双方向遠隔授業システム」が完成し、5月18日、富山大、富山医薬大、高岡短大、金沢大、北陸先端大、福井大の6大学の学長らが出席してシステムの竣工式典が行われた。

このシステムは、6大学で作る「北陸地区国立大学連合」が目指す広域的な連携事業のひとつとして、各大学の学生の履修科目の選択枝を増やす目的で導入されたもので、式典はシステムを用いて本



4大学をシステムで結んで行われた式典

学を含めた4会場を結んで行われた。システムを使った授業は17年度後期から8科目の講義で試行され、来年度から本格的に導入される。  
 (1〜4面に関連記事)

## ●塩谷副大臣が 角間、宝町両キャンパスを視察



病院棟屋上から宝町キャンパスを視察する副大臣(中央)

塩谷立副大臣は6月6日、本学を訪問し、林勇二郎学長らと懇談するとともに学内施設を視察した。

副大臣は角間キャンパス事務局で、

林学長から中期目標・計画、教育研究組織の改編、財務会計など本学の17年度の重点課題と取組について説明を受け、「金沢大は歴史と伝統を持った日本海側の基幹大学であり、広大なキャンパスも整備された。今後ますます教育、研究、産学連携などに努力願いたい」と本学への期待を述べた。この後、自然科学系図書館、自然科学棟、創立50周年記念館「角間の里」を見学した。

続いて宝町キャンパスで、医学系研究科の寄附講座、医学部附属病院の再開発、医学系研究科改修(PF)事業などに

ついて説明を受け、病院棟屋上から宝町キャンパスの整備状況を視察した。



古民家を移築した「角間の里」を視察する副大臣(右から2人目)

## ●医学関係貴重図書を送附された 稲坂暢氏に紺綬褒章伝達

昨年6月、本学医学系研究科の教育研究関係資料充実のため、貴重図書74巻を送附された稲坂暢氏(医師・元医学部附属病院講師)に、4月21日、林学長から紺綬褒章が伝達され、併せて学長の感謝状が贈呈された。

今回寄贈

された医学関係図書には、蘭医スロイスやホルトマンの講義録等が含まれ、現在、医学部記念館資料室に展示されている。



●法務研究科の優秀学生に  
報奨金贈呈

6月1日、法曹を目指して勉学に励んでいる大学院法務研究科（法科大学院）の優秀学生に対し、金沢大学法曹会（会長：池田良兼）会員らで作る「金沢大学法科大学院法曹養成支援基金」から報奨金が贈られた。金沢大学法曹会は法曹資格を持つ本学卒業生で作る会で、会員と法経文同窓会会員有志からの寄附により基金を設置、1回目の贈呈となる今回は、法務研究科1期生のうち、特に優秀な学生4名に10万円、優秀な学生5名に5万円がそれぞれ贈られた。



●海外留学フェア2005 開催

学生に海外留学への興味・関心を持ってもらうべく、6月2日から7日までの平日4日間、海外留学フェアが開かれ、延べ144人の学生が参加した。

開催4回目を迎える今回は、本学の協定校を含む33大学の紹介ブースや留学生とのチャットコーナー、留学相談コーナー、TOEFL・ICBTトライアルコー

ナーなどが設けられ、会場を訪れた学生は協定校のブースで留学生から情報収集をしたり、チャットコーナーで留学生との会話を楽しんだりした。



協定校のブースで留学生に相談する学生

●金沢百万石まつりパレードに参加

6月11日に開催された第54回金沢百万石まつりの「パフォーマンスパレード」に本学からおおよそ70名が参加した。

昨年に引き続き7回目の参加となった今年は、学生主体の参加となり、チャリダー部の笑顔あふれる演技とジャグリング&ミュージック・サークルの楽しい演技で市民を魅了した。また、放送研究会の学生によるPR放送や留学生によるパレードで、本学の教育研究・



雨の中でも絶やさぬ笑顔で演技したチャリダー部

社会貢献事業などを沿道の市民にアピールした。

●17名の新名誉教授に称号記授与  
名誉教授に新校舎を披露

5月28日、自然科学系図書館で名誉教授称号授与式が行われ、本年度新たに名誉教授となった17名に称号記が授与された。また、新名誉教授を含め50名余りの名誉教授が出席して、名誉教授懇談会が南福利施設で行われた。例年、市内で行われている授与式と懇談会は、名誉教授に新設された校舎を見てもらおうと、今年はや学内施設での実施となった。

懇談会の前には、自然科学棟と創立50周年記念館「角間の里」の見学が行われた。



●科学研究費「特別推進研究」に初採択

平成17年度の文部科学省の科学研究費補助金（科研費）のうち「特別推進研究」に、本学から申請していた「マイクログラフ度領域に於ける量子臨界現象の研究」の採択が内定した。この研究は、大学院自然科学研究科の鈴木治彦教授を研究代表者に、同研究科の松本宏一助教授と阿部聡講師の研究グループによるもので、

補助金の交付内定額は17年度からの5年間で2億4千万円余りとなっている。「特別推進研究」は科研費のうち、国際的に高い評価を得ている研究で、特に多額の研究費を必要とするものに補助されるもので、本学で「特別推進研究」の採択は初めて。

●自然研と石川高専が  
推薦入学で協定

7月1日、大学院自然科学研究科と石川工業高等専門学校との推薦入学協定調印式が行われた。

この協定は、石川高専の専攻科を修了あるいは修了見込みの学生を、本学大学院自然科学研究科博士前期課程に推薦で入学することができるようにしたもので、年間3名程度の受け入れを予定している。これまでも石川高専の学生は本学に入学しているが、制度化することによって両校の関係がより親密になることが期待される。

式では、辻彰研究科長と、石川高専の金岡千嘉男校長が協定書に署名、交換を行い、笑顔で握手を交わした。



協定書を交わす辻研究科長(左)と金岡校長(右)

# 金沢大学オープンキャンパス

## 8月9日(火) 10日(水)

【詳しくは、金沢大学HPへ】

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/enter/index2.html>

### オープンキャンパス・スケジュール

9:30/受付  
10:30/開始  
【主な内容】  
学部・学科等及び入試概要の説明  
教育・研究施設見学、模擬授業  
質問・相談コーナー  
キャンパス自由見学  
17:00/終了

当日は、学生食堂が利用できます。

●お申し込みは、金沢大学学生募集課まで  
TEL.076-264-5176~5179  
FAX.076-234-4042

■角間キャンパス	9日(火)	10日(水)
文学部	○	○
教育学部	○	-
法学部	-	○
経済学部	○	○
理学部	○	○
薬学部	○	○
工学部	○	○
■室町・鶴間キャンパス		
医学部医学科	○	-
医学部保健学科	○	○

※2日間とも同じ内容で実施します。ただし、教育学部・法学部及び医学部医学科は一日のみの開催です。



### 金沢大学「子ども見学デー・子ども参観日」

日時：8月24日(水)と8月25日(木)の2回、各9時~15時  
対象：小中学生(金沢大学職員の子もおよび一般の子どもたち)

大学キャンパスツアー  
や文化体験プログラム  
「金沢学」で和菓子づくりや和楽器、能楽などを留学生といっしょに体験します。



●お問い合わせ・お申込み  
金沢大学社会貢献室 TEL:076-264-5290 FAX:076-234-4052  
URL:chiiki@ad.kanazawa-u.ac.jp

### 小・中学生のためのものづくり教室

日時：平成17年8月23日(火) 10:00~16:00  
場所：金沢大学工学部(小立野)及び自然科学研究科(角間)  
参加対象者：小学5、6年生および中学1、2年生

- キャンドルを作ろう (角間) (募集20人)
- 電子ディスプレイ (角間) (募集15人)
- 電子ピアノ (角間) (募集15人)
- からくりコースターをつくろう (小立野) (募集20人)



●お問い合わせ・お申込み 工学部 総務係 TEL:076-234-4576



### ●Acanthusとは?

「アカンサス」は、古代ギリシア・ローマに由来し、金沢大学の校章に使われている植物の名称(和名ハアザミ)で、角間キャンパスの各地区をつなぐ連絡橋の名称に使われるなど、学生・教職員に親しまれている。

### ご意見・ご要望

金沢大学では、より良い広報誌を作成するため、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。  
取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですので、下記までお寄せください。

〒920-1192 金沢市角間町  
TEL.(076)264-5024 FAX.(076)234-4015  
金沢大学広報室 宛  
E-mail:koho@ad.kanazawa-u.ac.jp  
HP <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

アカンサス第号を発行してから早2ヶ月。次号を楽しみに待っておられる(？)皆様にとっては長かったかもしれませんが、インタビューだ記事起こしだと、慣れないことに奔走する我々にしてみれば「もう第二号の締め切りだ」と、あっという間の2ヶ月でした。

おかげさまで第二号の出だしは好調。在庫がほとんどなくなりました。本部1Fエレベーター横のラックにいくら補充してもなくなるという状況で、担当者一同うれしい悲鳴を上げております。

次号以降も初心を忘れず、思わず手にとりてしまつようなアカンサスをつくつていきたいと思つたので、よろしくお願ひいたします。

(友)

編集後記

